

ご挨拶

本日は、プレヒト × 沖縄芝居新作プロジェクト2023-2025 朗読劇『花染小の美ら姉』にご来場いただき誠にありがとうございます。
このプロジェクトは、ドイツの劇作家・演出家のベルトルト・プレヒトによる『ゼチュアンの善人』(1940年)を下敷きに、琉球芸能実演家で演出家の嘉数道彦氏による脚本・演出で「沖縄芝居」の新作として創作し、2025年12月に大劇場で上演する3年をかけたプロジェクトです。

今回は、昨年2月に上演した現代演劇の俳優によるリーディング試演会から生まれた沖縄芝居の新作戯曲『花染小の美ら姉』を“朗読”という形でお楽しみいただけます。現代演劇の物語が、新たに沖縄芝居の物語になる過程のなかで、沖縄芝居の魅力とは何か、現代演劇の魅力は何かと、あらためて感じていただければと思います。

今回の朗読劇では、物語の世界を舞台美術や衣装は伴わず、俳優の発するうちなぐちの台詞と音楽で表現いたします。通常の沖縄芝居公演では味わえない体験の中で、俳優の表現、言葉や音楽に注目していただければと思います。そして、12月の本公演がここからどのように演出され、変化するのか…楽しみにしていただければ幸いです。

最後に、今日のためにご尽力いただきました、全ての関係者のみなさまに、厚く御礼申し上げます。

那覇文化芸術劇場なは一と

作・演出より

私は、幼い頃から沖縄芝居が大好きでした。

意味不明な言葉が繰り返される舞台。しかしそれは苦痛ではありませんでした。身分や男女、年齢、地域などによって、また二枚目や三枚目等の役柄によって異なりをみせ、色鮮やかな“うちなぐち”が飛び通う舞台に圧倒され、いつか意味を知りたいと思うようになりました。また、役者の演技も大きな魅力でした。琉球舞踊の動きが基本といわれますが、美しさのみならず役に応じて土臭さ、バイタリティー、おおらかさを感じ、まさに沖縄の身体づかい、その豊かな表現に魅せられたものです。さらに三線の音色が場面を盛り上げ、特に太鼓やツケなどが役者の心情と共にこちらに響く瞬間、子供ながらに胸が高鳴り、チムワサワサした感覚は今でも変わりありません。

そんな私が大好きな沖縄芝居の感覚を大切にしながら、『ゼチュアンの善人』を『花染小の美ら姉』として仕立ててみました。そして、今回は朗読劇としての上演。“朗読”という表現形態がない沖縄芝居だけに、私自身（おそらく役者も）、動きたい、身体で演じたいというのが本音ですが、今回はプレヒトが描いた世界観と、うちなぐちの世界観を少しずつ交差させながら、台詞を聞かせることを中心として作品自体に向き合い創作しました。忌憚なきご意見、ご感想を頂けると何よりです。

日本語に訳せない世界観が、沖縄芝居の大きな魅力のひとつです。まだまだ未熟な点多々ありますが、新たな挑戦の機会を頂いたこと、素敵な出演者の皆さんと共に挑めることに感謝しつつ、沖縄芝居の新たな魅力に出会えるよう、本公演まで努めたいと思います。



嘉数道彦

1979年、沖縄県那覇市生まれ。幼少の頃より初代宮城能造・宮城能里に琉球舞踊を師事。宮城流能里乃会師範。沖縄タイムス社芸術選奨大賞受賞。第三十九回松尾芸賞舞踊部門新人賞受賞。沖縄県立芸術大学在学中より新作組踊や新作沖縄芝居の脚本・演出を手がける。同大非常勤講師を経て、13年～22年3月まで国立劇場おきなわ芸術監督を務める。現在、沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻准教授。

稽古の様子



あらすじ

渡地の浜辺。ユタアンマーは、神さまから宿を探すよう命じられたが、神々のみすぼらしい姿に村の者たちは誰ひとり宿を貸さず、困り果てていた。そこで、尾類のカミー小に相談すると快く受け入れ、神々も彼女の善良さを絶賛し、お礼にと大金を残して去っていった。そのお金を元手に、カミー小は「花染小」という店を始めるのだが…。

出演



カミー小/カナマイ
知念 亜希

玉城流翔節会師範。
我如古磨佐子に師事。



ユタアンマー
玉城 匠

宮城流豊舞会教師。
宮城豊子、島袋美智子に師事。



神一・波の上の坊主
東江 裕吉

玉城流玉扇福珠会師範。玉城静江・組踊を宮城能鳳に師事。



神二・唐人
金城 真次

玉城流扇寿会師範。
谷田嘉子・金城美枝子に師事。



神三・主ぬ前
宇座 仁一

宮城元流能史之会師範。宮城能史・宮城能之に師事。



松金
宮城 茂雄

宮城流師範。二代目宮城能造に師事。



松金の母
花岡 尚子

劇団うない所属。渡嘉敷流師範、二代目渡嘉敷守良、兼城道子、中曾根律子に師事。



マカテー
伊良波 さゆき

沖縄芝居研究会代表。伊良波晃・冴子に師事。



ウトウー
伊禮門 綾

劇団綾船。平良進、平良とみに師事。



糸満の青年
高宮城 実人

琉球歌劇保存会理事長。北村三郎、堀文子、大宜見小太郎に師事。

地謡



歌三線
仲村 逸夫

琉球古典音楽野村流保存会師範。比嘉康春に師事。



歌三線
平良 大

琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範。濱元盛爾に師事。



箏
池間 北斗

琉球伝統箏曲琉絃会師範。又吉貞子に師事。



笛
入嵩西 諭

琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範。大湾清之に師事。

原作：ベルトルト・プレヒト『ゼチュアンの善人』[翻訳/林立騎・構成/新井章仁]より
振付：阿嘉修 音楽：仲村逸夫 協力：沖縄芝居研究会
舞台監督：中村倫明 照明：真庭真一 音響：具志堅 亜由美 字幕：比嘉啓和 制作：前西原 祥子 制作補助：喜舎場 梓
技術統括：大塚 聖一 プロデューサー：土屋 わかこ 制作助手：池根 愛美 管理運営：那覇文化芸術劇場なは一と
舞台技術：有限会社新舞台 劇場案内：株式会社沖縄コングレ 託児：すけっと in ナハ

企画制作：那覇文化芸術劇場なは一と、シアター・クリエイト株式会社 主催：那覇市

[アフタートーク登壇者]

◆11:00 の回…嘉数 道彦、新井 章仁 (構成/劇団ビーチロック 主宰)、林立騎 (翻訳/那覇文化芸術劇場なはーと)

◆16:00 の回…嘉数 道彦、伊良波 さゆき (沖縄芝居研究会 代表)、金城 真次 (国立劇場おきなわ 芸術監督)

◇「ブレヒト × 沖縄芝居新作プロジェクト」とは…

ドイツの劇作家・演出家のベルトルト・ブレヒトによる『ゼチュアンの善人』(1940年)を下敷きに、琉球芸能実演家で演出家の嘉数道彦氏による脚本・演出で「沖縄芝居」の新作として創作し、2025年度なはーと大劇場での上演を目指すものです。

【第一段：原作台本リーディング上演】

2024年2月17日(土)

ブレヒト × 沖縄芝居新作プロジェクト 2023-2025 リーディング試演会

『ゼチュアンの善人』なはーと小劇場



舞台写真：久高友昭

原作：ベルトルト・ブレヒト

1898年生まれ、1956年没。ドイツの劇作家・詩人・小説家・演出家。20世紀を代表する世界的な演劇人の一人。社会の枠に収まりきれない放浪の詩人を主人公にした戯曲『パール』でデビュー。『夜打つ太鼓』でクライスト賞を受賞。作曲家クルト・ヴァイルとの共同作業による『三文オペラ』で世界的名声を確立。その後、〈叙事演劇〉と〈教育劇〉を構想、『処置』『ガリレイの生涯』『ゼチュアンの善人』等の傑作を書き、今なお世界中の演劇人に大きな影響を与えている。1933年、ナチスによる「国会議事堂放火事件」の翌日にデンマークに亡命、39年にスウェーデン、40年にフィンランドに移り、41年にアメリカに亡命。第2次世界大戦後、赤狩りの風潮の中で47年に非米活動委員会に喚問され、その直後スイスに渡り、48年に東ドイツに帰国した。49年には『肝っ玉おっ母とその子供たち』で注目を集め、劇団〈ベルリナー・アンサンブル〉を結成。54年には劇場を与えられ、パリの国際演劇祭で客演し、国際的な名声を確立したが、56年に心筋梗塞で急死した。20世紀のドイツを代表する詩人でもあり、『家庭用説教集』などの詩集がある

翻訳：林立騎

翻訳者、演劇研究者。現在、那覇文化芸術劇場なはーと企画制作グループ長。フリーランスの立場で国内外にて多くのアートプロジェクトに参加したのち、東京藝術大学大学院メディア映像専攻特任講師(2014-17年)、京都造形芸術大学舞台芸術学科学科非常勤講師(2014-19年)、沖縄アーツカウンシルプログラムオフィサー(2017-19年)、ドイツ・フランクフルト市の劇場キュンストラーハウス・ムーゾントゥルムドラマトゥルク(2019-21年)を経て、2022年より現職。翻訳書にノーベル文学賞作家エルフリーデ・イエリネクの『光のない。[三部作]』、ドイツの演劇研究者ハンス＝ティース・レーマンの『ポストドラマ演劇はいかに政治的か?』(ともに白水社)がある。イエリネク作品の翻訳で小田島雄志翻訳戯曲賞を受賞(2012年)。

上演台本・演出：新井章仁

脚本家・演出家。劇団ビーチロック 主宰。1980年大阪府出身。東京工芸大学芸術学部映像学科卒業。2003年より沖縄に移住。カフェバー&宿泊施設「ビーチロックピレッジ」を経営しながら、2014年「劇団ビーチロック」を旗揚げ。やんばる(沖縄北部)を拠点に、東京・大阪・名古屋でも主催公演を行う。一人芝居『穴』(脚本・演出)は沖縄での上演が好評を博し、名古屋・上田・札幌にも招聘され上演している。また、名作を演じるシリーズと銘打ち、岸田國士やロベール・トマ作品にも挑戦。そのほか、沖縄県主催「海外移民の歴史劇」3作品(会場：国立劇場おきなわ他)での脚本・演出や、「美ら島おきなわ文化祭2022」閉会式グランドフィナーレ、第7回「山の日」全国大会おきなわ2023のメインアトラクション、全国プラネタリウムで上演されている映画『ハナビリウム』の脚本を手掛けるなど定評がある。なはーとでは、2022年に沖縄・復帰50年「現代演劇集」にて劇団ビーチロック『オキナワ・シンデレラ・ブルース』(脚本・演出)を小劇場で上演した。

出演

井上あすか、仲嶺雄作 [ukulelebow]、西平士朗 [スタジオパフォ]、上門みき、ジョーイ大鷲 [劇団ビーチロック]、片山英紀 [劇団ビーチロック]、アサミ・ヴィクトリア、大嶺佳奈 [劇団ビーチロック]、伊都 [劇団ビーチロック]、岩田勇人、古堅晋臣 [ukulelebow]、犬養憲子 [芝居屋いぬかい]、上地広季、仲泊伽帆 [劇団ビーチロック]、東克明、屋宜秀高 [TEAMいるかんと。]

企画制作：那覇文化芸術劇場なはーと、株式会社アイランド・プロジェクト 主催：那覇市

美らさる花、咲かしうーさん世ぬ中どうなとーがやー

朗読劇

花染小の 美らさる 姉

はなずみぐわーぬ
ちゅらんみー

2025年

3月9日(日)

11:00開演/16:00開演
那覇文化芸術劇場なはーと 小劇場

原作:ベルトルト・ブレヒト『ゼチュアンの善人』(翻訳:林立騎、構成:新井章仁)より

作・演出:嘉数道彦 振付:阿嘉修 音楽:仲村逸夫 協力:沖縄芝居研究会

主催:那覇市 企画制作:那覇文化芸術劇場なはーと、シアター・クリエイト株式会社